

秋田弁断

私の秋田弁ライフ (6)



平成4年9月に「環八井荻立体（井荻トンネル）」工事に着任しました。この工事は東京都建設局第三建設事務所の発注で環状八号線と西武新宿線の井荻踏切がピーク時に於いて1時間当たり50分も遮断され計画交通量の6万台強が3万台弱しか通行できない大渋滞踏切でした。この解消のため延長1260mのトンネルと地域交通確保のための跨線橋を構築する工事でした。

着任に当たり第三建設事務所に挨拶にいきました。所長とお話してましたら「地主さんのご出身はどちらですか？」と、「はい、秋田の秋田市で秋田工業から日大の理工学部土木の二部を出ています」。「私も秋田の花輪で日大土木の二部ですよ、これもなにかのご縁ですね！大変厳しい工事ですが頑張ってください」と秋田訛りが有効でした。N所長はその後東京都の幹部となられ、今でも一杯飲んで旧交を温めております。



環八井荻立体トンネル

現場周辺は住宅地で、当初の作業はほとんどが夜間でしたので騒音・振動には特に注意し警備員の警笛も極力小さくするなど気を使いました。大型回転式掘削機3セットで地下連続壁を構築し、道路舗装を撤去して覆工板と覆工板で仮設の路面を作り、朝には車を通す緊張の連続で過酷な作業でした。夜間作業中も作業帯のすぐ脇は一般車両が通行していますので安全には本当に注意しました。パトカーは毎晩のように地元住民の苦情処理のため出動し、所長の私はその都度、釈明と謝罪の対応で事務所に泊まり家に帰るのは日曜日だけでした。

「うるさくて寝られない！お前がここにきて寝てみる！」と電話がありお伺いしました。「今すぐ仕事をやめろ！俺は明日も仕事がある、寝ない訳にはいかない、やめろ！」私は「あと2日で隣に移動しますのでどうか作業させてください、ホテルをご用意いたしますのでそちらでお休みください」と工法の説明と工程を説明しました。「ところで所長さんは、どちらの出身ですか？」と聞かれ、「秋田です」と応えたところ、「やっぱりな！俺は山形だもの。所長も訛り取れねものな、わがった、あと2日我慢するから頑張ってください」とこども訛りが助けてくれました。

相次ぐ苦情の傾向を分析したところ、おばさん連中が一番多いことがわかりました。そこで近所のスナックをお願いして毎週金曜日を貸切にして、おばさん連中に軽食・カラオケ、ちょうど映画のシャルウィダンスがブームでしたので、ダンスの先生をお願いして教室を開き4年間、定例会として地元自治会を巻込んで工事協力会的に活用し、苦情がほとんど無くなり、トイレが詰まった・風呂のタイルが落ちた・蜂の巣を取ってくれ、と便利屋さんとして活躍しました。工事が終わった時には自治会で送別会を盛大にやっていただき、今でも何人かの方と年賀状の交換をしています。

現場の下請けも秋田の連中は、よる年並みで少なくなり、新しく北海道函館の漁師が加わりました。同じ村の出身で半分は出稼ぎ、半分は専門の多能工として活躍してくれました。

150人を超える作業員と年3回、バーベキュー大会をやりました。焼肉の他にも北海道のチャンチャン焼きや「ホッケ」の丸焼き、秋田の稲庭うどん等々、地元の子供や婆ちゃんや自治会を招待し、大

変にぎやかに「秋田音頭」や「ソーラン節」が披露され、最後に賞品沢山のビンゴゲームでお開きとなりました。

今でも釧路の漁師から「今、沖にいるけどイカいっぱい取れだから地主さんくうが」と携帯に入ります。おかげさまで正月は函館の魚貝で美味しく頂いております。

第三建設事務所では現場進捗と近隣住民との関係を記録に残そうと平成6年度に「土塊のうた」と題して、どうゆうわけか私が主役となって撮影が始まりました。現場の進捗にあわせた周辺の様子や秋田工業時代の測量実習の写真や土木の歌「どうせやるなようーこりやでつかいことな一されよーソリヤホイ、アルプスまたいで測量しろよ、なだねソリヤホイ」を歌いながら現場を歩くシーンがあり、流石、NHKプロモーション、素晴らしい記録映画ができ、後に土木学会賞をいただきました。

現場では労働基準監督署の抜き打ち監査があります。新宿の監督署長自ら、当現場にお出でになり大変緊張しましたが、私が工事概要、工法説明、進捗状況等説明しましたところ「所長のご出身はどちらですか？」「秋田です」「そうですか、どうもその訛りはなつかしいなと思いました。私は大館の出ですが所長の訛りが羨ましく思いましたよ」と話はずみ、査定も少し甘くなったような気がして、訛りは国の手形と感謝しました。



環八井荻立体井荻トンネル完成写真

平成8年4月から井荻立体と兼務で「石神井川整備工事」も担当することになりました。豊島園遊園地の裏側で井荻と同じく周辺は住宅地でした。典型的な都市河川を降雨量1時間当たり30mm対応から50mm対応に変更するため既設の護岸を壊し川幅を広げ、新しい護岸を作る工事です。

ここも井荻と同じく地元対応が私の仕事でした。昼は石神井、夜は井荻と近隣住宅を訪問し要望や苦情処理に当たり、米つきバツタのように頭を下げる毎日！よく卑屈にならずに生きている自分に感心する日々でした。

ストレスの解消は、やはり秋田県人！お酒です。井荻駅前に社員の両親が経営する居酒屋があり、地元対応と称して社員に利用を勧め月末に会社が支払うことにしました。私はお酒の席では仕事の話はしない主義ですので、いつも馬鹿話とホラ話で笑いが絶えないコミュニケーション豊かな酒盛りでした。

協力会社の秋田の連中と同席になると秋田弁かフランス弁か不明の会話となります。

「所長！おもしろえ話あるだ、昨日の夜、武志のあばから電話こきて、仕送りのじえんこ、いつもよりすぐねどもなしてだ？ど、きかれたのよ、そしたらせ、請負の分すぐなくてそうだったと、きたもんだ、へば、あばは正志のあばだば、いつもとおなじだどゆったてせ、おかしねが？となってひと悶着あったのよ」「へばなしてそうだったのげ」「歌舞伎町のキャバレーの、めんけえ、おなごにだまされでとられたのよ」「なも、俺も、くじきかねでいればえがっども、しゃべたら、お客さん、ご出身はどこですかと聞かれ、秋田の本荘だと言ったら、あら私は秋田の雄勝町だとゆうもんで、どでんして、えぶりこいで追加追加でヘルプのめんけいこついで、勘定のときあまりの高さに、たまげだども、ふとめわりがら有り金はたいて払ってきたのよ」「こえだば本当のかまどけしだもの」「んだ、んだ、おなごも、ばしこいでえだべせ」。

しなぶる、じぐなし、ちよす、ずぶで、じよさね、まめだが、ぶじよぼ、がじえね、ありやしやぐね、とんじやぐね 等々。

毎度のお国訛りオンパレードが明日の活力となりました。

◆記事 **地主 勝己** 昭和37年土木科卒  
東京秋工会副会長

The technical group which wrestles with the reproduction of natural environments  
Limited Liability Partnership **Land Owner Office**  
project management group office  
2-23-8 Tsurumaki, Tama-City Tokyo 206-0034, Japan  
japan TEL:+8142-371-3630



自然環境再生にとりくむ技術集団（プロジェクト マネジメント グループ）  
有限責任事業組合 **ランドオーナーオフィス**  
〒206-0034 東京都多摩市鶴牧2-23-8  
TEL 042-371-3630 FAX 042-371-3687  
理事長 **地主 勝己**  
(昭和37年 土木科卒)



護岸整備された石神井川



“乾杯!”からはじまる感動のひととき。

BANQUET / ACCOMMODATION / RESTAURANT  
宴会・会議 / 宿泊 / レストラン

**アルカディア市ヶ谷**  
私学会館  
http://www.arcadia-jp.org  
〒102-0073 東京都千代田区九段北4-2-25  
TEL 03-3261-9921 FAX 03-3261-7760

JR線・地下鉄(有楽町線・有楽町線)市ヶ谷駅 徒歩2分